

## 【学生による ESD 活動支援】

### 第 2 回英語パフォーマンス甲子園 支援報告書

社会科教育専修 1 回生 木村 萌々香

1. **実施日** 令和元年 9 月 8 日（日）13：00～17：30
2. **場所** DMG MORI やまと郡山城ホール（大ホール）
3. **参加者** 仲村幸奈、足立繁都、加藤真由、木村萌々香（学部生）  
高校生ボランティア 4 名
4. **出場校** 奈良県立郡山高等学校                      奈良県立青翔高等学校                      コリア国際学園高等部  
奈良県立平城高校                      関西創価高等学校                      関西学院千里国際高等学校  
奈良県立桜井高等学校                      香里ヌヴェール学院高等学校  
クラーク記念国際高等学校大阪梅田キャンパス

#### 5. 活動支援内容

令和元年 9 月 8 日（日）、第 2 回英語パフォーマンス甲子園が開催された。主に、受付や生徒誘導、パンフレット詰めなどの大会の運営に関わる支援を行った。

今回の活動で感じたことは以下の 2 つである。  
1 つ目は ESD の広がり、2 つ目は国際化から日本文化を見つめなおすことである。

まず、1 つ目の ESD の広がりについて述べる。  
私は、高校生の頃、ESD という単語すら聞いたことがなかった。自分自身や周りの意識が低かったため聞いたことがなかったのかもしれないが、この

英語パフォーマンス甲子園に出場している高校生たちは、大会理念である ESD について学び考え、発表内容を作っていると思うと感動した。高校生という色々なことに興味がある時期に、ESD という難しい内容について深く考える機会が与えられたことは、決して損にはならないだろう。また、今大会は前年に比べて出場校が増えているということから、ESD が注目され、教育現場で広がっているため先生から生徒への周知も進んできているということが目に見えて分かった。

次に、2 つ目の国際化から日本文化を見つめなおすことについて述べる。近年、海外との関わりが謳われ、英語が必要不可欠な時代になってきた。海外との関わりが増え、海外の文化が増えていく中で、この大会では、沢山の日本の文化のすばらしさを再確認することができた。海外の方からも注目されている書道や、日本人の思いやりの精神、礼儀作法、コント（お笑い）、日本の有名な文学などの日本独自の文化が、分かりやすい英語でパフォーマンスされており、どの発表も素晴らしかった。これらのものは、どれだけ海外の文化が浸透したとしても、伝え続けていく必要があると強く思った。

今回の活動を通し、高校生たちが ESD や日本の文化を学び、それを分かりやすく英語で伝えるために工夫をしている姿を間近で感じ、とても刺激を受けた。また、英語でパフォーマンスしていた高校生たちの姿は、とてもかっこよかった。自分も高校生たちに負けないように、色々なことにアンテナを張って、これからの学生生活を過ごしたい。



結果発表を待つ高校生たち